

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

TAKATSUKI

Days

令和6年

10

No.1439

世界へ響け！

和太鼓のチカラ

今月の高槻な人

政本憲一さん

[和太鼓奏者]

PICK UP

- 10 選択肢広がる学童保育室
放課後はイロトリドリ
- 16 たかつきの財政状況
- 24 新商品創出
新規出店を支援
- 40 新連載 キラリカルチャー

TAKATSUKI NA HITO

高槻な人

政本憲一

さん

[和太鼓奏者]



世界へ響け!
和太鼓のチカラ

高槻で生まれ育った政本さんは、サッカーに明け暮れた10代を経て、25歳で出合った和太鼓の道へ。今は高槻・大蔵司の[和太鼓政や]を拠点に公演や指導などで奮闘する政本さんに、和太鼓、高槻の魅力について話を聞きました。



和太鼓を叩くヒノキ製のバチ。

和太鼓をドーンと叩くバチ。ヒノキを使うことが多いそうですが、「今後、高槻産の木を使ったバチを作ることも計画しています」と政本さん。



手のひらの中にはマメ。

「極力ムダな動きのないように背筋や足腰など全身を使って太鼓を叩きますが、やはり太いバチを握る手には、稽古と公演の証のマメができます」



太鼓の販売とメンテナンスも。

[和太鼓政や]には、多くの太鼓が置かれています。太鼓の生産で有名な石川県白山市の会社と提携し、販売とメンテナンスもしています。



迫力ある大阪最大級の太太鼓。

[和太鼓政や]にある一番大きな太鼓は台座を含めると400kgはあるという大阪最大級のもの。全長50mの太木をくりぬき、牛の革を張って製作。打つと音が5kmほど先まで届くそう。

TAKATSUKI NA HITO

世界へ響け！
和太鼓のチカラ



TAKATSUKI NA HITO

高槻な人

政本憲一 さん

[和太鼓奏者]

悶々としていた20代に 衝撃を受けた舞台。

—平成5年の市制施行50周年の際、「新しい郷土芸能を」を合言葉に、和太鼓団体の高槻太鼓が始動したことがきっかけで和太鼓が定着したと言われる高槻市。高校でもクラブ活動が盛んですが、政本さんも学生時代から和太鼓を叩いていたのですか？
「いえいえ、小学校から高校まではサッカーひと筋で。高校在学中にプロサッカー選手を目指していましたが挫折してしましまして。目標を見失って社会に出て、いろいろチャレンジはしたけど、何をやってもあまり続かなかったんですよ」

—若くもあり、将来について悩める日々だったかもしれないですね。そのジレンマから抜け出すことはできたのですか？
「25歳の時に、神戸を拠点に活動する和太鼓[松村組]のコンサートを知人に勧められて観に行っただんですけど、舞台を観たら雷が落ちたような感覚で、「これやな、こうなりたい！」と思って、そこへ飛び込みました」
—衝撃的な出会いだったのですか。[松村組]では、すぐに奏者デビューできたのですか？
「それまでサッカーしかやってこなかったんで、すぐには無理でした。周りにはみんな年下で、和太鼓や音楽経験者ばかりでした…2年間は下積み生活でしたね」

—2年は結構長く、大変そうですね。
「これ」って決めたので、気持ちは楽でしたね。和太鼓の代わりにタイヤを叩いて練習してたのですが、実家でやると周辺から「うるさい」って苦情がくるんですよ。だからタイヤを榎田の民家から離れた場所に持って行って叩いてました」

政本さんの歩み

昭和55年 1980年	高槻市で生まれる。
昭和61年 1986年	高槻市立寿栄小学校に入学 小学1年生からサッカーをはじめ、高槻市立第三中学校、金光大阪高等学校とサッカーに明け暮れる。
平成10年 1998年	金光大阪高等学校を卒業 プロサッカー選手を目指すのが断念。 数々の職を転々とする。
平成17年 2005年	神戸を拠点にする和太鼓[松村組]の公演を観て衝撃を受ける。師匠の自宅を探し当て弟子入りを志願。
平成19年 2007年	2年の下積み時代を経た後舞台デビュー。 現在は松村組の座長。
平成28年 2016年	[和太鼓政や]設立 なじみの深い高槻市大蔵司に和太鼓の拠点を設立する。
令和2年 2020年	政やのたこ焼きスタート 新型コロナの状況下での新事業としてたこ焼きの販売を始める。
令和5年 2023年	第1回「政やの太鼓祭」開催 高槻城公園芸術文化劇場 トリシマホールで開催。 今年も第2回が開催された。

—自然に囲まれての稽古も気持ち良さそうです。当時は、高槻から神戸に通っていたのですか？
「はい、正式なメンバーとなる前から神戸に住むようになり、そこから10年活動して、一つの区切りとして、自分が代表を務める[和太鼓政や]を高槻の大蔵司でスタートさせました。その時に住まいも高槻に戻りました」

—新しい拠点を、出身地の高槻につくりたいという想いがあったのですか？
「そうですね。僕自身、和太鼓に人生を変えてもらったと思っていて、ぜひこの魅力を地元の人たちに知ってもらいたいというのがありましたね。地元愛が強かったので、神戸にいる時も、いつかは高槻でも和太鼓を広めたいと思ってました」

非常時に光明を見いだす 祖父母からの贈りもの。

—[和太鼓政や]は、どのような場所
なんですか？
「ここでは貸しスタジオと定期的に教

北海道から
沖縄まで、
[和太鼓政や]は
全国を回って
公演しています。



[和太鼓政や]は、不定期で高槻市内の小学校での演奏も行っていきます。

室をやってます。教室は、3歳の子どもから上は80代の方まで、10クラス展開しています」

—スタジオの前には、たこ焼きを売るブースもありますよね？
「そうなんです。新型コロナの影響でスタジオの活動が約3年止まって演奏もできなくなってしまっ。こちらとしてはスタッフを抱えているので、なんかせなあかんなど。実は、祖父母が茨木市でお好み焼き屋を50年ぐらい続けていて。店は閉めたんですが粉はあったので…

—なるほど、その粉を生かそうとしたわけですね。
「これはピンチをチャンスに変えられるんじゃないかと。だから若いスタッフに、「バチを1回置け。今はそれを持っていてもしょうがないので、これを持って」と一人ずつたこ焼きピックを渡したんですよ(笑)。最初は、「オレは、たこ焼きを焼きにきたんじゃない！」とか言うかなと思ってたんですけど、ある日メンバーの一人に「先生、ちょっとお話があるんですけど」と言われて。あー、ついにくたかなと思って、「どうしたんや？」と聞くと、「僕、ピック2本で回せるようになりました」って(笑)。「すごいお前」って言いつつ、なんとかたこ焼きで苦境を乗り切りました」



—頼もしいメンバーたちですね。今[和太鼓政や]は何人で活動しているのですか？
「太鼓メンバーが私を入れて4名、アングレスの民俗音楽・フォルクローレの楽器奏者が2名、マリンバ奏者が1名の7名編成ですね」

—フォルクローレとはどんな音楽なんでしょうか？
「サイモン&ガーファンクルも演奏した「コンドルは飛んでいく」でおなじみかと思えます。日本から見たら、地球の裏側の南米の楽器なんです。尺八と構造や、使う音階も同じみたいで、どこか懐かしい感じがするのはそのせいかなと。和太鼓との相性はバツグンだと思いますね」

外国人観光客に向けて、 和太鼓と高槻の魅力を発信。

—昨年は、高槻城公園芸術文化劇場のトリシマホールで、「政やの太鼓祭」を開催しましたね。
「市制施行80周年の記念で1回目をスタートさせました。[和太鼓政や]の単独のコンサートにプラスして、地元市民や企業さんも出演していただき、最後は100人+和太



鼓100台が舞台に乗って演奏しました。好評をいただいたので今年も第2弾をやります(8月25日に開催済み)」

—地元高槻の和太鼓をますます盛り上げてくれていますが、これからやっていきたいことなどはありますか？
「京都を訪れている外国人観光客を高槻に呼び込みたいと思っていて、9月からは高槻観光と和太鼓をセットにした催しを考えています。高槻は京都と大阪の中間ですし、魅力を知ってもらいたい。まずは和太鼓を体験してもらって、これが定着してきたら観光にも巡ってもらい、だんだんカスタムをしていこうと。海外の方は和太鼓に興味を持たれてる方も多いようで反応がいいんですよ。太いバチで体を使ってドーンと打つのは、ニッポンの独特の鼓奏法というか、和太鼓の魅力だと思います。そこがすごく喜ばれますね」

スタジオ前の「政やのたこ焼」は、今は不定期で開店。高槻まつりなどのイベントに出品することも。



—和太鼓が盛んな街・高槻で太鼓の体験しながら観光もしてもらおう…とてもいい試みですね。
「これから根づいていけばいいと思います。また来年は[和太鼓政や]10年目に入るので、高槻から出発して高槻でフィナーレの全国ツアーをしたいと思っています。今も全国各地で公演するんですが、地元・高槻の話もします。ひらけた街もあるし、ちょっと行くと自然があっどちからも共有できる、人は温かくてとてもいい街だと。これからも和太鼓を通して、全国へ、そして世界へ高槻の魅力を伝えていきたいですね」





好きなヒト & スポット

01

スポット

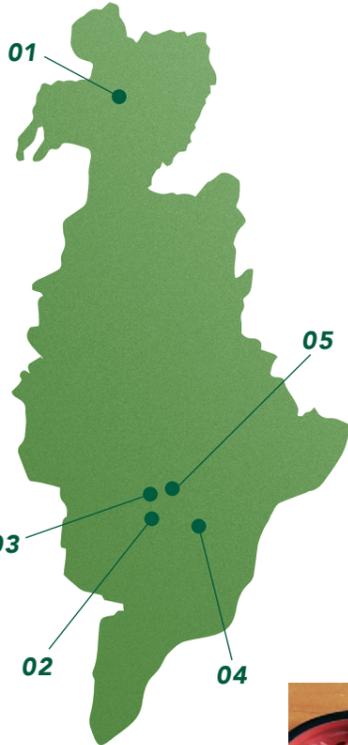
TAKATSUKI NA SPOT

檜田の田園風景

田能

かつて太鼓の練習に通った思い出の場所から見る景色。

高槻から亀岡に抜ける府道6号線沿い。高槻カントリー倶楽部とJAたかつき檜田支店の間にある田畑の一角が、若かりし日に通っていた政本さんの稽古場所。「春夏秋冬、ずっとここでタイヤを叩いていました。そこから見る景色が、季節ごとにどんどん変わっていくのがいいなと思って。田んぼがあって奥に集落があって、なんでもない場所なんですけど、哀愁もあるし、個人的にはすごく魅力があるなと思ってます。僕からしたら“ザ・高槻な風景”で、今でも楽曲を作る時などは時々訪れています」



02

ヒト

TAKATSUKI NA HITO

高谷ベーカリー 高谷直樹さん

宮之川原

地域発の米粉パンなどで地元を盛り上げる仲間。

[和太鼓政や]から歩いていける距離にある[高谷ベーカリー]は、地元でとれた米を使った米粉「清水っ粉」を使ってパンを焼くなど、地域に密着したパン屋さん。「店主の高谷さんは、地元を盛り上げようとしてくれる良き仲間。一緒に食べに行ったり飲みに行ったり、いろんなお話をさせていただきながら、活性化につながることはないかなと模索しています。高槻市の魅力をどうやって外に発信しようかという話はよくしますね」



[和太鼓政や]で太鼓を習っていたこともある高谷さん。「政本さんは気の置けない仲で、話していてもラク。お互いできることを最大限という話しています」

03

スポット

TAKATSUKI NA SPOT

ぜに沖

宮之川原

“高槻の味”としてお薦め。昔ながらの巻きずし。

「何かご褒美の時には、[ぜに沖]さんのおすしを食べに行っています。中でも巻きずしが最高においしい。具がぎゅっと詰まっています」と政本さんが絶賛する巻きずしは、炊いたシイタケ、高野豆腐、かんぴょう、魚のすり身が入った玉子焼を巻いたもの。昭和45年創業の歴史あるすし屋で、「父が始めた昔ながらの味を受け継いでいます」と二代目店主の沖野文彦さん。政本さんは、「全国から来るスタッフに、この巻きずしを“高槻の味”として持って帰ってもらってます」



「特別なことはせずに、普通にしているだけ。すし飯は、服部が原の地元米を使い、作り置きせず、できるだけ召し上がっていただく直前に調理しています」と沖野さん。

04

スポット

TAKATSUKI NA SPOT

焼肉 五島屋

芥川町

昔から変わらない佇まいのアットホームな焼肉店。

高槻の地で60年近く営業をする焼肉店。「ここは学生時代からずっと通ってました。大事なサッカーの試合前に食べるとか、勝負めしでしたね。今も公演の前にエネルギーをつけたい時にメンバーと一緒にいたり、打ち上げでも使わせていただいています。僕は赤身の肉が好きなのですが、ロースとカルビは絶品。昭和にタイムスリップしたみたいな昔ながらの焼肉屋さんという感じで、雰囲気も大好きです」



天井も高く広々とゆったりした空間でいただく焼肉は格別。創業者で86歳の山田郁治さん、妻の量子さんは今も元気に店に立ち、息子の克治さんも含めた家族で営むアットホームな店。

05

スポット

TAKATSUKI NA SPOT

神服神社

宮之川原

地元の人たちのふれあいの場所に。

高槻市立清水小学校の前に鎮座する歴史ある神社。「小学生の頃からよく来てました。夏休みには、櫓(やぐら)を組んだ盆踊りにも訪れて踊っていた記憶があります」と政本さん。「和太鼓政や」もここで演奏をしたこともあるそう。「地元の神社なので、大切にしたいなと思います。地域の人のふれあいの場所になればいいなと、[高谷ベーカリー]の高谷さんなどが企画して、令和4年から開催されている『神服マルシェ』では、和太鼓体験やたこ焼きで参加させていただきます」

